

# 烏帽子会会報

2024年春号 Vol.76



臨床実習生認定・白衣授与式 集合写真(R6. 2. 2)

■ 第43回烏帽子会総会のご案内	3 P
■ 会長挨拶	4 P
■ 教授就任挨拶	5 P
■ 教授退任挨拶	11 P
■ 学会報告	14 P
■ 支部だより	20 P
■ 学生会員支援報告	22 P
■ キャンパスだより	24 P

福岡大学医学部同窓会

## 目 次

・ 第 43 回烏帽子会総会へのお誘い	3
・ 会長挨拶	小 玉 正 太 4
・ 教授就任挨拶	
教授就任のご挨拶	馬 場 康 彦 5
教授就任のご挨拶	北 島 研 6
教授就任のご挨拶	仲 村 佳 彦 7
教授就任ご挨拶	堀 輝 8
教授就任挨拶	小 吉 里 枝 9
教授就任挨拶	久 部 高 司 10
・ 教授退任挨拶	
教授退任挨拶	久 保 真 一 11
24 年の教授生活と感謝の思い	向 坂 彰 太 郎 12
・ 学会報告	
第 33 回日本乳癌検診学会学術総会の開催ご報告	渡 邊 良 二 14
第 135 回日本循環器学会九州地方会開催のご報告	和 田 秀 一 16
第 6 回日本抗加齢医学会九州地方会学術総会を終えて	小 川 正 浩 16 三 浦 伸 一 郎 18
・ 研究奨励賞募集要項／在外研修援助金募集要項	19
・ 支部だより	
烏帽子会関東支部発足	柏 木 慎 也 20
第 29 回鹿児島支部総会および懇親会報告	橋 口 恭 博 21
・ 学生会員支援報告	
令和 5 年度 臨床実習生認定・白衣授与式	安 元 佐 和 22
白衣授与式を終えて	池 松 美 織 23
・ キャンパス便り	
剣道部創立 50 周年記念祝賀会－ 50 年を繋いだ学生 OB 会は学生の応援団－	・ ・・ 瀧 野 泰 秀 24
・ 訃報	
腹部血管造影チームの一員としての思い出	小 玉 正 太 26
・ 医局長・医長名簿	28
・ 教育職員人事	29
・ 編集後記	29

同窓会ホームページ共通 ID、パスワード

ID : eboshikai  
パスワード : fukudai1 (数字)



ホームページ用二次元  
バーコード

## 第43回烏帽子会総会 開催要領

# 第43回烏帽子会総会へのお誘い

主幹事学年：27回生代表 山田 哲平（福岡大学医学部 消化器外科学）

新型コロナウイルス感染拡大の影響が落ち着き、昨年4年ぶりに第42回烏帽子会総会が現地開催されテーマ『再会』の通り、参加者同志が久々に喜びを分かち合う事が出来ました。

今年は、同窓生全員が心を1つにすべくテーマ『団結』を掲げ、福岡大学医学部に勤務する27回生8人が中心となって37回生と一緒に、第43回烏帽子会総会の準備を進めております。また、今回の

講演会では、昨今の当大学学部内でも定着化した業績重視の方針に習い、27回生の中で最も業績の多いお2人にご講演をお願いしておりますので、是非、講演会も楽しみにして頂ければと存じます。

今回も沢山の方々にご参加を頂き、絆を深め、大いに盛り上がり頂ければ幸いです。よろしくお願ひ致します。



日時：令和6年7月6日（土）

会費：7,000円

場所：ソラリア西鉄ホテル 8階

福岡市中央区天神 2-2-43 電話（代）092-752-5555

総会：17:00～18:20

懇親会・講演会：18:25～20:00

講師：福岡大学医学部 救命救急医学講座

仲村 佳彦 先生（27回生）" 救急医がめざすもの "

講師：福岡大学医学部 衛生・公衆衛生学講座

前田 俊樹 先生（27回生）" 公衆衛生学で学んだこと "

※ご出席を希望される方は、「maileboshi@gmail.com」のアドレスへ

**6月20日まで**にお送り下さい。

## 会長挨拶

# 会長挨拶

烏帽子会 会長 小 玉 正 太 (13 回生 福岡大学医学部 再生・移植医学 教授 医学部長)



福岡大学医学部は一昨年度に 50 周年を迎え、4700 人を超える卒業生と約 4600 人の現役医師を輩出しています。その卒業生は医療に関する地域社会貢献をはじめ大学・基幹病院での若手医師育成など多岐にわたり活躍しています。また医師会をはじめ地域医療行政にもかかわり、卒業生の皆様におかれましては、多忙を極める毎日をお過ごしのことと存じます。

さて、2021 年 12 月より同窓会長代行を経て、2022 年より福岡大学医学部同窓会烏帽子会長に就任しました。この度 2024 年より決議を反映し、第 22 期同窓会長に再任致しました。引き続き学部内外で同窓会事業を紹介し、同窓会の公共性や貢献、知名度向上に努めてまいります。また同窓会報は学生会員、その御両親も会誌をご覧になられます。今後医学部同窓会は学部在生・卒業生が誇りを持ってその名を口に出来る組織へと導きたい所存です。引き続きまして、多くの同窓会

事業や学内外の状況を発信し、広く同窓生にご理解頂けますように鋭意努力致しますので、どうぞ宜しくお願い致します。

同窓会における同窓生サポートとは、新旧卒後医師や学生の交流を深め先輩後輩の絆を結び、学生・若手医師をサポートする後援会であります。決して先輩風をふかすだけの、時と場にそぐわないパタリズム集団であってはなりません。そのため先輩は後輩のロールプレイモデルとして手本となる道標を示すべきであると考えます。しかしながら、学内同窓生はともすれば学業成績や論文業績のみに拘る学校の先生集団にもなりかねません。医学部の同窓会長とは、これらのバランスをはかり、学内外の進歩的な改革を目指すことを責務とします。

学外の活動としましては、前回会長就任後以下支部総会に参加して、講演はじめ意見交換を行いました。関西支部(上方会)総会、筑後支部総会、佐賀支部総会、佐世保支部総会、鹿児島支部総会、関東支部総会(昨年発足)各支部の皆様方に於かれましては、支部の課題について前向きな話し合いができ、誠にありがとうございました。これを機に支部の皆様方に於かれましては、ぜひ総会にもお誘いの上ご参加頂きまして、新任教授はじめ若手卒業生の活躍を直に見聞きして頂きたいと思えます。

最後になりましたが、福岡大学医学部同窓会浄財から、福岡大学病院新本館建設に関して二千万円の寄付を行わせて頂きました。この場をお借りして、会員の皆様に感謝いたします。会員皆様の今後益々のご健勝とご活躍をお祈り致します。

## 教授就任挨拶

## 教授就任のご挨拶

福岡大学医学部 脳神経内科学 主任教授 馬場 康彦 (20 回生)

馬場 康彦  
主任教授 略歴

平成 2 年 3 月  
東福岡高等学校 卒業  
平成 3 年 4 月  
福岡大学医学部医学科 入学  
平成 9 年 3 月  
福岡大学医学部医学科 卒業  
平成 9 年 4 月  
福岡大学病院 臨床研修医  
(第 2 内科)  
平成 11 年 4 月  
福岡大学病院 神経内科・健康管理科  
医員  
平成 12 年 4 月  
福西会川浪病院 神経内科 医員  
平成 14 年 4 月  
福岡大学病院 神経内科・健康管理科  
助手  
平成 15 年 4 月  
米国メイヨークリニック  
神経内科学 臨床研究員  
平成 17 年 10 月  
福岡大学病院 神経内科・健康管理科  
助手  
平成 20 年 4 月  
福岡大学病院 神経内科・健康管理科  
講師  
平成 26 年 4 月  
東海大学医学部 内科学系神経内科学  
准教授  
平成 27 年 4 月  
東海大学病院 認知症疾患医療センター  
センター長(兼務)  
平成 29 年 4 月  
昭和大学藤が丘病院 脳神経内科  
准教授・診療科長  
令和 6 年 4 月  
福岡大学医学部 脳神経内科学講座  
教授(現在に至る)

多くの先生方からのご高配を賜り、この度、福岡大医学部脳神経内科学講座の主任教授を拝命いたしました 20 回生の馬場康彦と申します。私は福岡市城南区で生まれ育ち、平成 3 年に福岡大学医学部に入学しました。卒業後は福岡大学医学部第二内科に研修医として入局しました。2 年間の研修後は脳神経内科学講座の前身である神経内科・健康管理科に所属し、それから脳神経内科医としての道を歩んでまいりました。当講座は初代山田達夫教授によって創設され、平成 23 年からは第 2 代目の坪井義夫教授が主宰されました。私は第 3 代目として主任教授を拝命いたしました。その重責に身の引き締まる思いであります。

私はこれまで神経変性疾患の研究を主な専門分野として取り組んでまいりましたが、日本における高齢化と脳神経内科疾患に対する診断精度の向上に伴い、アルツハイマー病やパーキンソン病などの神経変性疾患が急増しています。昨年からはアルツハイマー病に対する新規抗体治療が始まり、認知症の進行抑制が期待されていますが、長期的な治療効果についてはわかっていません。パーキンソン病についても内服治療だけでは改善できない症状に対して、外科的治療を含めた様々なデバイス療法が開発されていますが、疾患の進行を止めることは未だにできません。神経変性疾患の病態を多角的に見据えて、創薬や新規治療法の開発を目指した臨床研究活動を行っていきたくと考えております。

脳神経内科診療において、特に神経救急疾患に対しては多職種協働体制で診療にあたるのが強く求められます。様々な診療科や部署の方々のご支援のもとで成り立つチーム医療を実践して、神経救急疾患の診療を充実させることは、ひいては地域医療への貢献につながっていくと考えております。

脳神経内科学の包括的な研究と診療は、講座としての成長につながるだけでなく、地域社会・地域医療への貢献や脳神経内科学における教育の向上にも寄与するものと信じております。福岡大学医学部と福岡大学病院のさらなる発展に貢献できるような講座を目指して精進してまいります。今後ともご指導とご鞭撻のほど、よろしくご挨拶申し上げます。

## 教授就任のご挨拶

福岡大学医学部 医学教育推進講座 主任教授 北 島 研 (21 回生)



北 島 研  
主任教授 略歴

1992 年 3 月  
福岡県立修猷館高校卒業

1998 年 3 月  
福岡大学医学部 医学科卒業

1998 年 5 月  
福岡大学病院 内科第 2 臨床研修医

2001 年 3 月  
米国ペンシルバニア大学医学部  
Post-doctoral researcher

2005 年 12 月  
福岡大学病院 循環器内科 医員

2008 年 4 月  
福岡大学病院 総合診療部 助教

2011 年 4 月  
福岡大学筑紫病院 循環器内科 助教

2013 年 4 月  
糸島医師会病院 内科医長

2015 年 10 月  
福岡大学病院 循環器内科 助教

2016 年 4 月  
福岡大学病院 循環器内科 講師

2019 年 4 月  
福岡大学病院 卒後臨床研修センター  
副センター長・講師

2019 年 10 月  
同上・准教授

2024 年 4 月  
福岡大学医学部 医学教育推進講座  
主任教授  
現在に至る

この度、2024 年 4 月 1 日付けで、福岡大学医学部医学教育推進講座の主任教授を拝命いたしました。学生が医療人として活躍できる 20 年先の医学教育の一翼を担うことができることに感謝申し上げます。

さて 2024 年 2 月に行われた第 118 回医師国家試験では、新卒合格率 85.0% と全国最下位となり、烏帽子会員の皆様にご心配をおかけしたことを、心よりお詫び申し上げます。全国最下位の新卒合格率であった要因は色々考えられますが、やはり本学下位医学科生の学力低下は否めません。入学後、6 年間で留年なく卒業し、医師国家試験に合格したストレート国試合格者数は、2024 年卒で 77 名とここ 10 年ほどは大きな変化はありません。つまり入学定員 110 名から計算上出てくる下位 30 名ほどが留年し、合格率を低下させていることになります。合格率向上のためにはこの下位学生に医師国家試験に合格する学力を付けて頂く必要があります。

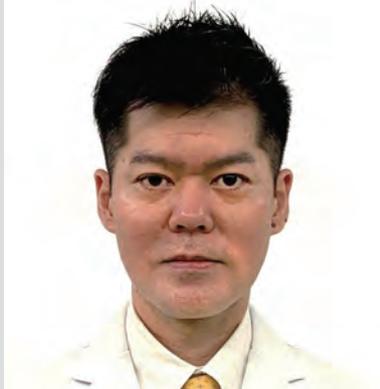
福岡大学医学部の学生は、素直さゆえに、「がむしゃらに勉強するなんてカッコ悪い。勉強しなくても留年なんてしない。」という先輩の言葉を真に受けてしまいます。少しでも早く医師として人の役に立ちたいと入学時に胸に誓ったストレート国試合格の思いに立ち返り、我々先輩は学生と向き合っただけで卒業時到達目標を確認しながら、正しい方向へ導いていく必要があります。

M6 では保護者からのサポートにより予備校講師を招いて年間合計 9 回にわたる特別講義を行っております。さらに烏帽子会からのご協力を得て、福岡大学医学部教員で構成した国試対策委員による国試対策講義を約 10 科目行っております。それでも成績が振るわない下位学生とは、学生一人ひとりと直接対話しながらどこが弱点なのかを把握して補完方法を考えたいと思います。前任の福岡大学病院卒後臨床研修センターでは初期研修医との面談により、たすきがけ研修など研修医が求めていることをプログラムに取り入れ、福岡大学を含む多くの学生にプログラムに応募して頂くことができるようになりました。卒前教育でも個々の話を聞き、求められるテーラーメイドの医学教育を行いたいと考えています。

当講座が、烏帽子会皆様の誇りとなるべく、これから精一杯努力して参る所存です。引き続きご指導のほどどうぞ宜しくお願いいたします。

## 教授就任のご挨拶

福岡大学医学部 救命救急医学講座 主任教授 仲村佳彦 (27 回生)



仲村佳彦  
主任教授 略歴

生年月日 1979年4月4日

- 2004年3月  
福岡大学医学部医学科卒業
- 2004年5月  
福岡大学病院 初期臨床研修
- 2006年4月  
福岡赤十字病院 救急部
- 2008年4月  
前橋赤十字病院 高度救命救急センター  
(5ヶ月間日本医科大学病院 高度救命救急センターへ国内留学)
- 2012年4月  
福岡大学病院 救命救急センター  
助教
- 2015年10月  
福岡大学病院 救命救急センター  
講師(4条7号)
- 2016年4月  
救急振興財団 救急救命九州研修所  
専任教授
- 2018年4月  
ハーバード大学医学部/  
マサチューセッツ総合病院  
リサーチフェロー
- 2020年4月  
福岡大学病院 救命救急センター  
講師
- 2024年4月  
福岡大学医学部 救命救急医学講座  
主任教授

このたび、令和6年4月1日付けで、福岡大学医学部救命救急医学講座の主任教授を拝命いたしました仲村佳彦と申します。平成16年に福岡大学医学部を卒業し、2年以上の臨床研修が必修化とした新医師臨床研修制度開始時に福岡大学病院で初期臨床研修を行いました。その後は福岡赤十字病院救急部、前橋赤十字病院高度救命救急センター、日本医科大学病院高度救命救急センターでドクターカー・ドクターヘリによる病院前救護、災害医療、ER診療、集中治療に従事して参りました。平成24年に福岡大学病院救命救急センターに入局後は、救急救命九州研修所にて救急隊、救急救命士の教育に取り組んできました。さらに福岡大学薬学部で急性期脳梗塞に関する基礎研究を行い、学位を取得後は米国ボストンのハーバード大学医学部マサチューセッツ総合病院にてリサーチフェローとして基礎研究のさらなる研鑽を積みました。

各診療科が細分化・高度化していく中、あらゆる疾患の初期診療を行う救急医のニーズは増してきており、病院内での診療のみならず、災害時の院外または被災地での災害医療提供も救急医の大切な任務であります。また、2020年に始まったCOVID-19パンデミック時には救命救急センタースタッフが一丸となり、ECMOを含めた集学的治療により“命の砦”としての役割を果たしたことも大きな社会貢献を果たすことができたと感じております。

これまでご指導頂きました方々に感謝を申し上げるとともに、臨床・研究・教育をバランスよく実践し、福岡大学および福岡大学病院の発展に貢献できるよう努めて参ります。今度とも烏帽子会会員皆様の温かいご支援、ご指導をどうぞよろしくお願い申し上げます。

## 教授就任ご挨拶

福岡大学医学部 精神医学教室 主任教授 堀 輝 (特別会員)



堀 輝  
主任教授 略歴

平成9年3月  
長野県立長野高等学校卒業  
平成9年4月  
産業医科大学医学部入学  
平成15年3月  
産業医科大学医学部卒業  
平成15年6月  
産業医科大学病院・臨床研修医  
(神経精神科)  
平成16年6月  
小倉蒲生病院  
平成17年6月  
産業医科大学病院・専門修練医  
(神経精神科)  
平成19年6月  
株東芝 北九州工場健康支援センター  
産業医  
平成20年6月  
産業医科大学病院・専門修練医  
(神経精神科)  
平成21年4月  
産業医科大学精神医学教室 助教  
平成25年1月  
産業医科大学精神医学教室  
学内講師  
平成27年4月  
毎日新聞西部本社 産業医  
平成28年4月  
産業医科大学精神医学教室 講師  
令和2年4月  
北九州古賀病院 精神科  
令和3年4月  
福岡大学医学部精神医学教室 講師  
令和4年10月  
福岡大学医学部精神医学教室 准教授  
令和6年4月  
福岡大学医学部精神医学教室  
主任教授  
兼任：福岡大学病院精神・神経科  
診療部長  
福岡大学病院  
認知症疾患医療センター センター長

2024年4月1日付で福岡大学医学部精神医学教室主任教授を拝命いたしました。謹んでご挨拶申し上げます。

精神医学教室は1993年に設置されました。初代西園昌久教授、2代目西村良二教授、3代目川崎弘詔教授と受け継がれ、私で4代目となります。これまでに我々の教室には多くの先生方が在籍し、数々の業績を積み上げ、多くの優れた人材を輩出してきました。当教室の伝統をかみしめ、その重責を担うこととなり身が引き締まる思いです。

私は、2003年に産業医科大学医学部を卒業後は、当期中村純教授が主催されていた産業医科大学医学部精神医学教室に入局いたしました。小倉蒲生病院などの精神科病院での研鑽や専属産業医として東芝や毎日新聞での研修を行いました。若いうちから研究に携わる機会をいただき、精神薬理学的な研究を中心に行っていました。その後は産業精神医学にも興味を持ち、治療ゴールをリカバリーに据えた個別化精神医学研究に従事し、その道の第一人者でもある Bernhard Baune 教授の元に日本人としては初めて留学する機会をいただきました。2021年からは福岡大学精神医学教室で、これまでの研究分野に加えて精神分析や精神療法アプローチやリハビリテーションアプローチを統合する形での臨床や研究を行う機会をいただきました。また、医学生教育や医師の教育も積極的に行ってきました。特に全国の若手医師に対する標準教育プログラムの中心メンバーとして長年活動を行ってまいりました。

福岡大学精神医学教室には、臨床、研究、教育に対して意欲的な医局員が多数在籍しています。教室の運営に当たっては、自由で多様な研究グループを応援できるような医局を作っていきたいと思っています。臨床は「地域性」、研究は「国際性」を意識してこうと思っています。そして若手と共に少しずつではあったとしても確実に成長できるような教室を作ってまいろうと思っています。

最後に、「福岡大学精神科で精神医学教育や研究をしたい」「福岡大学病院の精神神経科で働きたい」「福岡大学病院の精神科で診てもらいたい」「福岡大学精神医学教室の出身や職員であることに誇りを持てる」、その様な教室でありたいと考えておりますので、今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

## 教授就任挨拶

福岡大学病院 医療安全管理部 教授 小吉里枝 (28 回生)



小吉里枝  
教授 略歴

平成 10 年  
私立れいめい高等学校卒業

平成 17 年  
福岡大学医学部医学科卒業

平成 19 年  
福岡大学医学部 心臓・血管内科学  
助手

平成 24 年  
福岡大学病院 臨床検査部 助手

平成 24 年  
福岡大学大学院医学研究科  
先端医療科学系専攻博士課程修了

平成 25 年  
医療法人 佐田厚生会 佐田病院  
常勤医

平成 28 年  
福岡大学医学部 特別寄付講座  
地域医療管理学講座 助教

平成 29 年  
福岡大学病院 医療安全管理部  
助教

令和 3 年  
福岡大学病院 医療安全管理部  
講師

令和 5 年  
福岡大学病院 医療安全管理部  
診療准教授

令和 6 年  
福岡大学病院 医療安全管理部  
教授

令和 6 年 4 月 1 日付けで福岡大学病院医療安全管理部病院教授を拝命いたしました小吉里枝(こよしりえ)と申します。私は平成 17 年に福岡大学医学部を卒業し、臨床研修医を修了後、平成 19 年に朔啓二郎教授の主宰される心臓・血管内科学に入局いたしました。平成 20 年に大学院に入学し、現心臓・血管内科学教授である三浦伸一郎先生のご指導のもと、超音波検査を用いた血流依存性血管拡張反応 (FMD) を測定し、冠動脈疾患との関連についての臨床研究を行い、学位を取得いたしました。平成 29 年 5 月より医療安全管理部の所属となり、医療安全管理者として医師、看護師、薬剤師を含む多職種チームで医療安全活動に取り組んでおります。

近年、医療の高度化・専門化や患者の高齢化が急速に進み、医療現場はより複雑になっています。患者さんに安全な医療サービスを提供することは、医療の最も基本的な要件の一つであり、医療者一人一人が自立した職業人として自己研鑽を重ね、医療に係る知識・技術を一定のレベルに保つように努めることが必要です。同時に人は誰でも間違えるという前提に立ち、過ちが起きないような環境を整備し、システムを構築し、組織全体として安全管理の推進を図ることが求められています。

医療安全管理部に配属されて以降、全国的にも問題となっている、放射線画像報告書見落とし防止や、転倒・転落防止、患者急変対応システムの一つである Rapid Response System (RRS) の立ち上げなど、PDCA サイクルに基づいた安全策の策定に取り組んでまいりました。ただ、これらの取り組みは安全管理部だけで行うことは不可能で、多くの診療科の医師や看護師、コメディカル、事務部門との多職種連携が不可欠です。これまで、先生方をはじめ、多くの方々からご支援を賜り医療安全活動を行なってまいりました。今後も福岡大学病院の理念である「あたたかい医療」を基に、安全文化の醸成に貢献できますよう精進していく所存です。今後とも皆様からのより一層のご指導を賜りますようお願い申し上げます。

## 教授就任挨拶

福岡大学筑紫病院 消化器内科 教授 久部高司 (17 回生)



久部高司  
教授 略歴

1969 年 9 月 26 日生

1988 年 3 月

長崎県立長崎北高等学校卒業

1994 年 3 月

福岡大学医学部医学科卒業

1994 年 5 月

福岡大学筑紫病院消化器内科入局

1998 年 4 月

天陽会中央病院

2000 年 4 月

福岡大学筑紫病院消化器内科

2001 年 6 月

Duke University Medical Center  
(Radiation Oncology)

2003 年 6 月

新小倉病院

2005 年 7 月

福岡大学筑紫病院消化器内科

2010 年 10 月

福岡大学筑紫病院消化器内科 講師

2017 年 4 月

福岡大学筑紫病院消化器内科  
准教授

2019 年 4 月

福岡大学筑紫病院炎症性腸疾患センター  
センター長

2023 年 4 月

福岡大学筑紫病院消化器内科  
診療教授

2024 年 4 月

福岡大学筑紫病院消化器内科 教授

2024 年 4 月 1 日より消化器内科教授（消化器内科診療部長・内視鏡部診療部長・炎症性腸疾患センター診療部長）に就任しました久部高司（ひさべたかし）と申します。烏帽子会会員の皆様にご挨拶を申し上げます。

私は長崎県長崎市の出身で、1988 年に福岡大学医学部に入学し、学生時代は硬式テニス部に在籍しておりました。1994 年に卒業し福岡大学筑紫病院消化器内科に入局し、消化器内科の八尾恒良教授、松井敏幸教授、植木敏晴教授そして内視鏡部の八尾建史教授のもと診療・研究・教育に努めてまいりました。今回新たな役職を授かり身に余る重責ではございますが、福岡大学筑紫病院の多くの方々のご支援の賜物と心より感謝しております。一意専心にて皆様のご期待に応えられるよう尽力いたします。私の専門領域は大腸疾患ならびに炎症性腸疾患で、特に大腸腫瘍に関する画像診断と内視鏡治療に注力してまいりました。また 2019 年 4 月より炎症性腸疾患センター診療部長に就任しておりますが、炎症性腸疾患の診療については集学的な診療体制が必要であり、IBD チーム医療ワーキングを通して職種や診療科の垣根を越えたチーム医療の実践に努めております。

現在私たちの消化器内科は、消化管研究室と肝胆膵研究室の 2 つの研究室で構成され全ての消化器疾患をカバーし、緊急の内視鏡検査や治療にも対応しています。消化器内科領域では、大腸癌や炎症性腸疾患、膵癌、胆管結石症は増加の一途を辿っておりますが、地域医療支援病院として更なる診療体制の整備を行い、地域の先生方のお役にたてるよう地域医療に貢献してまいります。

また、私たちの医局は臨床第一の理念のもと、患者さん中心の診療をおこなってまいりましたが、大学病院として臨床を中心とした学術研究を遂行し医療の発展にさらに寄与するために、今後も一例一例を大切にしております。さらに患者さんご家族に心から安心していただける医療を提供することはもちろんのこと、大学病院として質の高い先進的で高度な医療も提供してまいります。新しい治療を優先的に用いるのではなく、症例に応じた最適の治療を選択し、より有効かつ安全性を重視した診療を行ってまいります。

福岡大学筑紫病院消化器内科は、これまでこれからも今後を担っていく良き臨床医の育成に努めてまいります。烏帽子会の皆様におかれましては、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

## 教授退任挨拶

## 教授退任挨拶

福岡大学医学部 法医学 前教授 久保真一（特別会員）



私は、この3月で定年退任しました。退任にあたり烏帽子会の皆様にご挨拶させていただきます。私は、2008年4月に徳島大学から赴任しました。現役教授からの異動でした。当時、長崎に残してきた両親が高齢で病気がちとなり、長崎に近い大学に異動できないか悩んでいたところ、私の前任である柏村教授（当時）から、お誘いをうけ移ることになりました。当初2007年4月に着任の予定でしたが、徳島大学の法医学教授が不在となることから、1年遅れの2008年4月に着任しました。

法医学教室は、他の基礎講座と同様に教育、研究に当たるとともに、臨床講座の診療と同様に法医学業務（解剖、検案、鑑定）を担っております。在任中の教育、研究、法医解剖を振りかえってみます。

学部教育では、これから多死・人口減社会となること、在宅医療は在宅死につながることを学生に理解させ、死者を診るために必要な法医学の知識を伝えてきました。大学院教育では、専攻する研究者が少ない法医学の領域にあって、論文博士、課程博士あわせて9名の学位取得者（医学博士）を指導できました。

法医解剖は、在任中の16年間で次第に増加してきました。当初年間60体程度の解剖数でしたが、最後の数年は100体を超える解剖数になりました。解剖数の増加は、高齢社会の進行と総死亡数の増加を反映したものと考えます。また、解剖は、数だけ

でなく、質も変わりました。増加した解剖は、犯罪死体ではなく非犯罪死体で、年齢も高齢者が多くなってきました。一人暮らしの高齢者が死亡し、発見が遅れて死体現象が顕著に進み腐敗した死体となって発見される事例が増加しました。

研究では、地元福岡のために何ができるかを考え、2つの研究課題に取り組みました。2006年に発生した「海の中道大橋飲酒運転事故」は、社会に大きな衝撃を与えました。そこで飲酒運転の証明・抑止につながる研究に取り組むことになりました。エチルグルコシド（EG）は、日本酒に含まれる成分ですが、私たちはさまざまな醸造酒にEGが含まれることを明らかにし、蒸留酒も食事とともに飲酒した場合には、体内でEGが合成されることを確認しました。EGは飲酒後、尿中にエタノールが排泄されなくなっても検出できることから、飲酒の証明につながるものと考えられました。もう一つは、性犯罪の証明・抑止につながる研究です。福岡は、人口1万人あたりの性犯罪の認知件数は大阪に次いで全国第2位です。睡眠導入剤等の薬物（DRD）を使用した性犯罪事件では、DRDの証明が課題となります。私たちは毛髪中のDRD検出法の開発に取り組みました。開発した方法により、毛髪からDRDを検出した鑑定結果は、裁判において証拠採用されるようになりました。

福岡大学で過ごした16年間に、様々なチャンスを得ることができました。学内外の研究者との交流は研究の進展に、多くの解剖症例は珍しい症例に遭遇する機会となりました。組織の運営においては医学部長、学長補佐、日本法医学会理事長・会長、国際法医学シンポジウムISALM会長、内閣府や厚生労働省の委員を担うことができました。そして両親を看ることができました。福岡大学で、私は様々なチャンスに恵まれました。感謝しかありません。

最後に16年間の在任中、烏帽子会の皆様には、大変お世話になりました。烏帽子会ならびに福岡大学医学部の今後ますますのご発展を祈念申し上げます。

## 24年の教授生活と感謝の思い

福岡大学名誉教授 前消化器内科学 教授 向坂 彰太郎 (特別会員)



2000年に福岡大学に医学部第三内科教授に就任しました。その後、内科はナンバー内科から、七つの臓器別内科再編となり、私は消化器内科初代教授に就任しました。19年勤務した後、5年間医学部総合医学研究センターに勤務し、合計24年間福岡大学にお世話になりました。

私は福岡大学赴任時、消化器内科を九州の消化器病の診断、治療の中核施設へと育てることを第一目標に掲げました。

### 1. 臨床部門の充実

まず、就任後5年間は臨床部門を充実させることを目標としました。

福岡県は肝癌患者が全国的にも極めて多い地域です。しかし、残念なことに、市民ならびに肝臓病患者さんの肝臓病への理解が十分ではなく、そのため、肝癌の早期発見の機会を逸している場面に幾度となく遭遇しました。そして、我々医療従事者が、市民ならびに患者さんに直接最新の医療情報を届けることが重要だという思いを抱くようになりました。そこで、福岡市内で、毎年300～400人規模の市民公開講

座を企画し、肝疾患、肝炎ウイルスとその肝癌との関係、そして、肝癌の早期発見と治療について医局員とともに講演と医療相談会を行ってきました。この活動は15年以上にわたりました。

並行して、当科では2000年より肝癌に対する治療としてラジオ波焼灼術を開始し、本治療を受けるため福岡県内から多くの患者さんが、福大病院を受診されました。私の在任中に本治療の症例数は2300例を超え、また、放射線科の協力の下、肝癌の抗癌剤治療例数は2000例を超えるほどになりました。一方で、当科の入院待ち数が60～80人という事態も起こりました。

また、ウイルス性肝炎ならびに肝癌の臨床を学ばせるため、本邦でその症例数が最も多い虎の門病院に、合計5名の医局員を派遣し、当科の臨床力の更なる向上を図りました。

さらに、福大病院を移植医療のメッカにするために、当時の消化器外科の山下裕一教授とともに、生体肝移植を開始しました。

また、日本消化器病学会九州支部長として、学会を活性化し、女性医師の会設立などの新しい活動を促進しました。

### 2. 基礎研究の充実

大学病院である以上、臨床ばかりではなく、基礎的研究が極めて重要だと考え、基礎的な知識に裏打ちされた医師を養成しました。基礎研究は多額の薬品購入ならびに研究補助員に対する人件費が必要となります。そこで、当時福岡大学にはなかった研究寄附講座というシステムを本学に申請しました。今までにない新たなシステムで、認可までには多くのハードルがありました。努力の甲斐あり、最終的に認められ、現在医学部の多くの講座でこのシステムを使っ

た寄附講座が開設されています。研究寄附講座への寄付、ならびに製薬会社の治験、他の病院からの寄附などを合わせ、数億円を超える研究費が集まり、研究人件費、試薬費、レーザー顕微鏡、小腸内視鏡、携帯式腹部超音波器、In Body 体成分分析装置など、基礎ならびに臨床機器の購入に使わせていただきました。

また、基礎研究のために、医局員を米国 Yale 大学、Mayo Clinic、九州大学生化学教室などに留学させて、当科の基礎研究のレベル向上を図りました。

私自身、日本臨床分子形態学会（従来の日本臨床電子顕微鏡学会）の理事長を7年務め、新しい学会づくりと全国の研究者、特に若手の研究者に学会発表とその成果の論文執筆を奨励し、本邦の基礎研究が世界に知られるように努力しました。また、若い頃の私の研究は、インパクトファクター10点以上の雑誌に25回以上アクセプトされています。

### 3. 福大病院新診療棟の建築

2010年竣工の福岡病院新診療棟建築において、内藤正俊病院長の下、病棟部門の責任者を務めさせていただき、設計段階から携わる事となりました。診療科の統合とより効率的な病棟利用、さらに、患者さんの病院へのアクセスを重視した設計となりました。病院と地下鉄福大前駅を直接つなぎ、その間にスターボックスを導入しました。まるで空港ターミナルの様な外観と吹き抜け空間のある病院受付など、福大病院は都会的でアクセスが良く、しかも、待ち時間などに利用できる空間を考慮した病院と評価を受けました。その後、新診療棟は2012年第25回福岡市都市景観賞（建築部門）、2012年照明普及賞（優秀施設賞）などが授与されました。

### 4. 学生教育

教育においては、福大赴任時より消化器に関係した基礎の各科、消化器内科、消化器外科、放射線科の講義内容すべてをPower Pointのテキスト形式として製本し、配布しました。これにより従来400枚以



上あった配布プリントを激減させ、学生からは好評でした。今では一般的になっているこのテキストは、当時としては斬新で、各科の講義の先生には感謝いたします。一方、学生に無記名で講義担当者の点数をつけてもらい、その点数ならびに学生の意見を全先生にフィードバックしました。これには、当初講義担当者から批判的な意見も多数でしたが、改革には学生の意見を真摯に聴くことが重要と考え、実行させていただきました。その後、講義前のスライド作りや講義そのものにも講義担当者が努力されて、全体の講義内容が飛躍的に改善しました。

以上、4つの観点から私の福岡大学での活動を述べさせていただきます。

私の臨床ならびに研究におけるモットーは「人のやったことはやらない」、そして、「科学に厳しく患者に優しく」です。このような考えの基に、批判を恐れず大學生を送って参りましたので、周りの先生方ならびに、医局の秘書・研究員の方にも多大な迷惑を掛けてきたかと思えます。そのような私のわがままを受け入れて頂いた、福岡大学医学部の各科の先生方、そして何より消化器内科の皆様には、言葉では言い尽くせないほどの感謝の念でいっぱいです。今後も、福岡大学のならびに皆様のご発展とご健勝を心からお祈りしております。

学会報告

## 第33回日本乳癌検診学会学術総会の開催ご報告

第33回日本乳癌検診学会 学術総会 会長 渡邊 良二 (8回生)  
糸島医師会病院 乳腺センター

この度、第33回日本乳癌検診学会学術総会(2023年11月24日(金)・25日(土)の2日間)を国際会議場および福岡サンパレスで会場とWEB(オンデマンド)での方式で開催させていただきました。本学術総会の開催に際しまして、烏帽子会の皆さまには多大なるご支援を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。また、福岡では3回目の開催となりましたが、盛会のうちに終えることができましたので、ここにご報告させていただきます。

さて、増加し続ける乳がんの検診に係る画像診断の進歩はめざましいものがありますが、最新情報には新しく取り入れるべきもの、新しくてもすぐに取り入れず今までの方法を変えない方が良いものもあると思います。そこで、今回の学術総会のテーマは「持続可能な乳癌検診をめざして～時代を見据えながら～」とし時代を見据えつつ、今後のより良い検診のあり方、持続可能な乳癌検診はどうあるべきかを会員の皆様と考えたいと思い構成致しました。

シンポジウム①では持続可能な乳がん検診を様々な立場でご講演頂き、他にも視触診の是非、プレスト・アウェアネス、医療経済・費用対効果、マンモグラフィの比較読影・再撮影・被曝関連、がん教育、HBOCに対する検診、US併用検診、マンモグラフィ

と超音波の読影のコツ、AIや新しいモダリティ等の最新情報に関しても日本を代表するエキスパートの講師陣によりご講演頂き、多くの知識を得られるセッションを企画し、期待通りの有意義なセッションとなりました。

また、特別講演①では超音波検査併用による乳がん検診の導入に向けて講演頂き、特別講演②で、検診における精度管理の理解を深めて頂きたく、精度管理の過去から現在、更に今後どのような精度管理を目指すべきかを講演して頂きました。

招待講演では、医療CGの第一人者である瀬尾拓史先生より、診療に役立つ医療用画像からの3DCG再構成を素早く鮮明な画像処理の有用性や今後の展開についてご講演頂きました。いずれの講演も大変勉強になりましたという声を多数の参加者からいただきました。

さらに、例年通り研修委員会と各種委員会企画ならびに共催の各種セミナーも開催致しました。特に総合判定セミナーでは「みんなで投票、総合判定マスター目指せ!」として、出席者参加型で構成され、日常診療に役立つ「マンモグラフィ技術セミナー」、「超音波ハンズオンセミナー」も開催致しました。

一般演題は、200演題を超えるご応募をいただき



活発な討議が行われました。

今回、研修医・学生セッションも設け、期待通り若い方々を含めて検診について討論するよい機会の提供になったと思っています。

御蔭様で、招待者を含め 1554 名の例年を上回る参加人数があり、盛会で学術総会を終えることができました。これも、皆様から頂きました御高配の賜物と思い、心より御礼申し上げます。尚、乳房超音波検診精度管理委員会委員長として編集を担当した「超音波による乳がん検診の手引き～精度管理マニュアル～改定第 2 版」発刊が学術総会に間に合ったことも御礼を兼ね報告させていただきます。

全国学会により苦労も多々ありましたが、全国の参加された多数の先生方から、大変勉強になりましたという声をいただきました。

今回、実行委員長の富田昌良先生（7 回生）と顧問をしていただいた元がん研究所病理部長の秋山太先生（7 回生）をはじめ、運営企画委員として藤光律子先生（8 回生）、森寿治先生（10 回生）、吉永康照先生（11 回生）、松尾文恵先生（13 回生）、プログラム委員の島倉樹子先生（18 回生）深水康吉先生（23 回生）のご指導とご協力で開催することができました。さらに、開催当日の会場運営に関しては糸島医師会病院スタッフのチームワークの高さに感謝とお褒

めの声をいただきました。

また、本学術総会の開催に際しましては、多くの方々から惜しめないご指導、ご鞭撻を頂きましたこと、本誌をお借りし御礼申し上げます。

最後になりましたが、福岡大学医学部同窓会の皆様方には心より御礼を申し上げますとともに、烏帽子会の益々のご発展をお祈り申し上げます。引き続きご支援ご指導お願い申し上げます。



渡邊

富田院長



## 第 135 回日本循環器学会九州地方会開催のご報告

福岡大学医学部 心臓血管外科学 主任教授 和田 秀 一 (13 回生)

福岡大学医学部 臨床検査医学 主任教授 小 川 正 浩 (14 回生)

2023 年 12 月 2 日(土)、福岡市のアクロス福岡にて第 135 回日本循環器学会九州地方会を開催いたしました。本会の開催に際し、福岡大学医学部同窓会より多大なるご支援を賜りまして心より感謝申し上げます。

本学会は九州地域における循環器疾患の臨床・教育・研究に携わる医療従事者が、これまで経験した貴重な症例や、基礎および臨床など日頃の研究成果を発表し、学術的交流や親交を深める貴重な機会として発展し定着しています。

今回私たちは外科医と内科医のそれぞれの立場で、それぞれの得意とする心臓・血管分野の発展とともにハートチームの強固な連携を演繹するという強

い思いを込め、本会のテーマを「Our Heart Team - 外科内科、そしてチーム医療 -」と掲げることとしました。急性期から慢性期、日常診療から先進医療に至るまで循環器診療は幅広く、Dx 医療の進歩とともに診療技術はより高度に、また深く複雑に進化しています。こうした目覚ましく発展する先進医療において、外科と内科それぞれの活性化と綿密な連携と共に多職種とのチームプレーは不可欠といえます。

教育セッションでは、大会長 2 名がそれぞれ座長を務め、東京医科歯科大学 循環制御内科学 笹野哲郎教授に「AI 時代の心電学」、東京医科歯科大学 心臓血管外科学分野 藤田知之教授には「ロボット僧帽弁形成術の進歩」をご講演いただきました。



また会長特別企画では、「TAVR 時代の AS 治療戦略」、「心不全における不整脈診療」、「心臓生理の基礎と臨床」の3つのセッションを、また今回の目玉として「キッズハートセミナー」を企画・運営しました。心臓血管外科学と臨床検査医学の医局員とハートセンターの看護師が協力し、参加者のお子さまを対象に模擬循環器医療者体験をしていただきました。いずれの企画も本学会において前例のないもので、多くの参加者の皆様に大変好評をいただいたと自負しております。

このように盛会裏に終えることができましたのも同窓会の皆様からの温かいご支援の賜物と改めて心より感謝を申し上げます。ありがとうございました。

今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

https://www.congre.co.jp/k-jcs135/

第135回  
日本循環器学会  
九州地方会  
Our Heart Team  
—外科内科、そしてチーム医療—

2023年  
12/2 土 会場 アクロス福岡

会長 和田 秀一 鹿児島大学医学部 心臓血管外科 主任教授  
小川 正浩 鹿児島大学医学部 臨床検査医学 主任教授

鹿児島大学医学部 臨床検査医学 181-8512 鹿児島市桜島7-45-1 TEL:099-261-1011 Email: jcs@kyushu-u.ac.jp  
鹿児島大学 | 鹿児島コンベンションセンター TEL:099-2091 鹿児島市桜島9-17-111 TEL:099-271-8331 Fax:099-271-6743 Email: jcs135@congre.co.jp



## 第6回日本抗加齢医学会 九州地方会学術総会を終えて

福岡大学医学部 心臓・血管内科学 主任教授 三浦 伸一郎 (11 回生)

この度は、福岡大学医学部同窓会のご支援の下、2024年1月28日(日)に第6回日本抗加齢医学会九州地方会学術総会を開催させていただくことができました。紙面を借りまして、ご報告させていただきます。

アメリカの医学者ウィリアム・オスラー博士の「ヒトは血管とともに老いる」という言葉にもあるように、若い血管をいつまでも保つことがアンチエイジングにつながっています。そこで、今回の学術総会のテーマは、「多職種協働と、エクササイズと、アンチエイジング」とさせていただきます。「多職種協働」とは、様々な専門性を持つ職種で共通の目標に向けて共に働くことです。医療分野では、患者さんに対して、医師や看護師、理学療法士、歯科医師、薬剤師のみならず、ケアマネジャーや介護士、民生委員など多くの職種が関わり、円滑なコミュニケーションを持つ質の高いチームでより良い治療を実践できるように心がけます。患者さんはもとより、より多くの皆さんのアンチエイジングにも多職種で関わるのが重要です。また、エクササイズは、いうまでもなく、栄養とともに健康によい方法です。今回、国内の高名な先生をお呼びし、心血管病の予防に欠かせないアンチエイジングについて様々なトピックスを発表いただきました。

特に、特別講演は、順天堂大学 大学院医学研究科循環器内科教授の南野徹先生に演題名「老化は制御可能か」にて、老化細胞を標的とした抗老化治療 (Seno-antigen, SASP, Seno-anergy) の可能性をお教えいただきました。また、トピックス<多職

種連携によるアンチエイジング>では、3名の方々から、「健康管理ソリューションにおいて薬局ができること・求められること」、「みやき町における産官学民連携による健幸づくり (みやき健幸大学プロジェクト)」、「病院管理栄養士による配食開発協力について」をご発表いただきました。

今回の学会が滞りなく開催できましたのも同窓会の先生方のご支援のおかげです。厚く御礼申し上げます。今後ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

第6回  
日本抗加齢医学会九州地方会学術総会

2024年1月28日(日) 電気ビル共創館  
三浦 伸一郎 福岡大学医学部心臓・血管内科学 主任教授  
小吉 里枝 福岡大学病院 医療安全管理部 診療管理課長

日本抗加齢医学会九州地方会  
一般社団法人日本抗加齢医学会、日本抗加齢学会九州支部  
公益社団法人福岡県医師会、一般社団法人福岡県歯科医師会  
一般社団法人福岡県薬剤師会、一般社団法人福岡市薬剤師会  
公益社団法人福岡県理学療法士会、一般社団法人福岡市薬剤師会  
公益社団法人福岡県理学療法士会 (予定)

〒810-0072 福岡市中央区磯島3-1-27 第2電線ビル2階  
TEL: 092-722-2811 FAX: 092-406-2467  
E-mail: kyusyu-jaam@zenith-jc.jp

http://kyusyu6-jaam.com

令和7年度 福岡大学医学部同窓会烏帽子会

## 研究奨励賞募集要項

申請方法につきましては、秋号にてお知らせいたします。

福岡大学医学部同窓会烏帽子会

## 在外研修援助金 募集要項

長期研修

対 象：正会員、準会員（本会会費完納を条件とする）で医学の研究または医療技術の習得のため、  
3ヶ月以上外国に留学する者

申請方法：所定の申請書により留学出発3ヶ月前までに提出の事

提出先：〒814-0180 福岡市城南区七隈7-45-1

福岡大学医学部同窓会事務局

T E L 092-865-6353(直通) 代表 092-801-1011 / 内線 3032

F A X 092-865-9484

援助金：1件20万円を限度とし、年間5件以内

発 表：本人に文書にて連絡

そ の 他：①受給者は帰国後その成果を同窓会会報に発表する事

②申請書は同窓会事務局に請求又は烏帽子会ホームページからダウンロードの事

③研修中に生じた問題については同窓会は関与しない

※なお在外研究援助金をうけ留学している者は、出来る限り学生会員海外研修助成事業に賛同し、  
渡航研修する受け入れ側施設担当者として、協力する事が望ましい。

支部だより

## 烏帽子会関東支部発足

関東支部長 柏木 慎也 (21回生)

21回生の柏木慎也です。この度烏帽子会関東支部が発足いたしましたのでご報告致します。

小玉会長、川浪理事、北島理事、安部理事のご尽力に感謝いたします。

東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県、群馬県、栃木県、茨城県に開業もしくは勤務する同窓生を関東支部会員とさせていただきました。

関東は大学、研究機関、がんセンター等多くの医療機関があり、それらにかかわる人、関東が地元の人、結婚して福岡からやってきた人など300名以上の同窓生がいる中でやっと関東支部が発足しました。

2024年2月10日、第1回烏帽子会関東支部総会がニューオータニ東京で開催されました。

まず、設立総会にて支部の承認、そして会長に選出していただきました。その後は懇親会で食事しながら小玉会長の医学部、同窓会の現状のご報告を拝聴し、会員それぞれの近況報告をしていただき、楽しく懐かしいひと時を分かち合いました。

川浪理事、北島理事とは学生の頃、2班で一緒でした。担任は臨床検査部の井手口先生でした。班の飲み会を私が仕切っていたので支部長のお話をいただいたのでしょうか。

関東にいる21回生は仲が良く、川浪先生が教授になられた際もお祝いをしました。

この度北島先生も教授になられて、同期として誇らしいです。木下先生が佐賀支部の支部長をされています。21回生で烏帽子会を支えていきたいと思えます。

関東支部の役割として、現存の支部会員の交流はもちろんのことですが、研修を関東の病院でしようと考えている学生さんの相談にもものってあげたいと思っています。支部の会合の時であればいろんな世代の方々に会うことができますと思います。現支部会員でなくても関東に所縁のある方であれば飲み会への参加は大歓迎です。

今後とも関東支部をよろしくお願いいたします。

[eboshikaikantoshibu@gmail.com](mailto:eboshikaikantoshibu@gmail.com)



## 第 29 回 鹿児島支部総会および懇親会報告

鹿児島支部長 橋 口 恭 博 (11 回生)

日 時：令和 6 年 2 月 17 日 (土) 17:00 ~  
会 場：ホテルレクストン鹿児島  
出席者：30 名

鹿児島支部は現在 200 名超の会員の先生方が、薩摩・大隅そして離島の県内津々浦々で活躍されています。支部会はここ 4 年コロナ禍のため流会となっておりましたが、本年小玉 正太 会長 (13)、林 英之 副会長 (1) をお招きし、久しぶりに開催しました。

開会に先立ち令和 5 年 11 月 6 日に皮膚癌のためご逝去された、村永整形外科院長 村永 実幸 先生 (9) に黙祷を捧げました。私個人的にも本学軟式庭球部の先輩として、また鹿児島でも医師会の先輩として大変お世話になった方でした。改めてご冥福をお祈り申し上げます。

総会では令和 2 ~ 5 年度事業および会計ならびに監査報告、令和 6 年度事業および予算 (案) の承認。役員人事の件。次回第 30 回総会特別講演 演者推薦の件など討議頂きました。その後小玉会長に最近の本学の様子や会長の研究テーマにつきご講演頂き、本学の変貌や臍島移植についての新知見を垣間見ることができました。懇親会では林副会長の

ご挨拶で本学 50 年の歩みをお話頂き、本学腫瘍・血液・感染症内科学准教授より転出され、鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 血液・膠原病内科学分野 教授に着任されている石塚 賢治 先生の乾杯で開宴となりました。一桁回卒の大先輩の先生方から初参加の若手の先生方まで、昔話や近況報告を頂き、楽しい時間を過ごしました。

当支部では組織再編、会費問題など懸案も多々ありますが、皆さんにご協力を頂きながら今後も運営し、医療業務にも生かされる絆を繋げられる様にできればと考えています。来年の第 30 回支部会もご参加を宜しくお願い申し上げます。



## 学生会員支援報告

# 令和5年度 臨床実習生認定・白衣授与式

福岡大学医学部 医学教育推進講座 教授 安元 佐和 (7回生)

同窓会の皆様には、平素より福岡大学の医学教育への多くのご支援をいただき、誠にありがとうございます。

令和6年2月2日 RI 大講堂にて、医師法の一部改正に伴い公的化された医学生共用試験 (CBT・OSCE) に合格した M4 の学生 110 名に対して、医学生共用試験合格証及び白衣授与式が執り行われました。これまでの Student doctor の名称は臨床実習生となり、「診療参加型臨床実習のための医学生の医行為水準」に基づき、指導教員の監督下で一部の医療行為が実施できるようになりました。烏帽子会から寄贈された白衣は、今年度から生地をワンランクアップした新しい素材にいただきました。真新しい白衣に袖を通した学生は、多くのご父兄の同席の

と、全員でヒポクラテスの誓いを宣誓しました。

翌週月曜日朝早くから、臨床実習生たちは緊張した面持ちで、福岡大学病院の各診療科に配属され医療チームの一員として実習を開始しております。これから臨床の現場で患者さんや病院の多職種から学び、医師になるトレーニングを積んでさらに成長することを期待しております。

昨年度より M5 の学外クリニカル・クラークシップでは、福大病院近隣の病院の先生方に医学生をご指導いただいております。心から感謝申し上げます。今後とも厳しくまた暖かいご指導をどうぞよろしくお願い申し上げます。

同窓会の皆様のご健勝をお祈り申し上げます。



## 白衣授与式を終えて

池松美織 (M5)

2024年2月2日、RI大講堂にて白衣授与・Student Doctor 認定式が行われました。このような素晴らしい式を開催していただき、誠にありがとうございました。学年を代表し、携わっていただいた全ての方に心よりお礼を申し上げます。

白衣授与式では、烏帽子会より学生一人ひとりの名前が刺繍された立派な白衣をいただきました。いただいた白衣に袖を通してみると、これから臨床の現場に立つ医療者の一人だということを改めて実感させられ、身の引き締まる思いがしました。

私たちの大学生活はコロナ禍により様々な活動が制限される状況の中でスタートし、戸惑いや不安を感じることの多い日々でした。先生方をはじめ多くの方々に支えていただき、4年間を乗り越え、この度新たな一歩を踏み出すことができましたこと、深く感謝

申し上げます。

これからの実習では、教科書で学んできた知識が臨床の現場でどのように応用されているのかを実際に目で見て学んでいきたいと思います。また、患者さんと接する中で医師としてふさわしい態度や心遣いを身に付け、人間として成長することも臨床実習の重要な目的であると感じています。限られた期間の実習が有意義なものとなるよう、貪欲に学ぼうとする姿勢を大切に、向上心を持って日々学習に励んでいく所存です。

診療に参加して学ぶ機会をいただいていることに感謝し、医療者としての自覚と責任を持ち実習に取り組むことをここに誓い、お礼の言葉とさせていただきます。



キャンパス便り

## 剣道部創立 50 周年記念祝賀会 — 50 年を繋いだ学生 OB 会は学生の応援団 —

剣道部 OB 会会長 瀧野 泰秀 (8 回生 / 社会医療法人財団白十字会白十字病院)

2023 年度に福岡大学医学部剣道部 (正式名 : 剣道愛好会) は創立 50 周年を迎えました。また、顧問の鍋島茂樹先生 (1990 年卒) が、2023 年 4 月に福岡大学医学部総合診療学講座の主任教授に昇進されました。そこで OB・OG と学生が一堂に会してこれらを祝いました。

現在の部員数は 33 名で医学部をはじめ薬学部、理学部、工学部、経済学部、法学部の学生が所属しています。また OB・OG の数は約 140 人になりました。

福岡大学医学部剣道部の創立は 1973 年 (昭和 48 年) 4 月です。これまで吉田隆 OB 会長 (2 回生) のもとに 5 年毎に周年記念パーティーを行ってきました。今回は 50 周年を迎え、2023 年 12 月 2 日、頤和園 (いわえん) 博多駅前店におきまして、OB・OG 24 名、学生 28 名 (計 52 名) が集まり祝賀会を行い、遠方は千葉県から駆け付けてくれました。また、この節目の日をもって OB 会長吉田隆先輩から私瀧

野が OB 会長を引き継ぐこととなりました。

何故、剣道部が途絶えることなく 50 年続き、そしてこのような記念祝賀会ができたのか? 「学生が主役・中心となって剣道部の日々の活動をコツコツと行い、OB・OG との関係大切に、伝統を繋ぐ者がずっといたから。そして、OB 会がずっと現役学生の応援団であったから」です。学生時代のことを思い出す時、医学の勉強のことよりも先にクラブ活動の思い出が浮かんでくるのは私だけではないと思います。“縁” があって剣道部という場に集まり、先輩後輩と共に熱い気持ちで日々を過ごしました。未熟であった自分を大人に育ててもらったという感謝、“恩” を感じます。“縁” と “恩”。“御恩報謝”。そんな気持ちが脈々と繋がったからこの伝統ができたのです。

今の医学生は、我々の学生時代とは格段の差がある量の医学情報のため、厳しい勉強が必須であることは間違いありません。しかし、後輩たちには学生時代は勉強以外に何かに打ち込んで欲しい。そしてそこ



創立 50 周年記念祝賀会

から机の上では学べないことを沢山学んで欲しい、色々なことを感じて欲しい。そんな経験は自ずと勉学にも良い影響をもたらします。それが人間的に深み

のある温かい心を持つ医者をつくります。そしてそれが、先輩後輩の太い絆、福大医学部の脈々とした伝統を築いていく礎となるのですから。



OBと学生の懇談



鍋島教授（剣道部顧問）を囲んで



50周年記念品



OB戦（2023年12月）

訃 報

正会員	橋 口 雅 尚 先生	令和6年 5月 9日	ご逝去 (4回生)
正会員	井 上 廣 先生	令和4年	ご逝去 (6回生)
正会員	村 永 実 幸 先生	令和5年 11月 6日	ご逝去 (9回生)
正会員	林 伸 昭 先生	令和4年 10月 20日	ご逝去 (10回生)
正会員	大 城 徹 先生	令和4年	ご逝去 (22回生)

## 腹部血管造影チームの一員としての思い出

再生移植医学講座主任 教授 / 福岡大学医学部長 小 玉 正 太



今から33年程前の平成3年であったが、岡崎先生がまだ主任教授に就任される以前のことである。私は外科学第一からの学内ローテーション医として、放射線医学教室で講師時代の岡崎先生から多くの御指導を賜った。当時、腹部血管造影チームは私や佐藤茂先生など、外人部隊と呼ばれた放射線科入局者以外のローテーターが常勤し、岡崎先生からはTAEはじめIVRについて多くをご指導頂いていた。ただ、岡崎先生は元々外科医で在られたが(九州大学1外科出身)、当時導入された鎖骨下動注ポート挿入や経腸間膜静脈経門脈造影など、血管造影室には全く似つかわしくない手技の助手を私が担当さ

せて頂いていた。これが結構辛く、研修2年目の未熟な外科手技を徹底的に厳しく御指導頂いたため、学外の関連病院へ行って一般外科の手術をさせて貰った方が良かったかな?と思ったことさえあった。診療が終わっても遅くまで医局でその日の読影や治療に関する勉強会が行われ、そのあと岡崎先生が管理されていたデータベースからテーマを頂き、学会発表や論文作成に格闘する日々を過ごした。卒後2年目にして既に医師としての学習習慣を整えて頂き、以後大学教官として生きて行く姿勢を学んだ。

受け持ち患者さんは、ほぼ全員が肝不全患者で肝硬変、肝癌を経て壮絶な最期を共にした。当時は告知しない時代であったが、アミノレバンと新鮮凍結血漿を通常点滴として用い、吐血・下血の中で一家の主人が当然死期を悟り、残る家族のために奔走する姿には言葉に出来ないほど心を打たれた。この生死観の中で究極の replacement 治療は移植医療ではないかと考えるようになった。当時はほとんど病棟か医局で暮らしていたのであるが、ある日岡崎先生に呼ばれ「夏休みをやるからどこか見学に行って人生を決めてこい」と言われた。わずか1週間余りであったが、1991年当時肝移植の聖地であった、Pittsburgh 大学に紹介状1通だけを持ち見学に向かった。日本では1997年に臓器移植法が成立し、1999年に

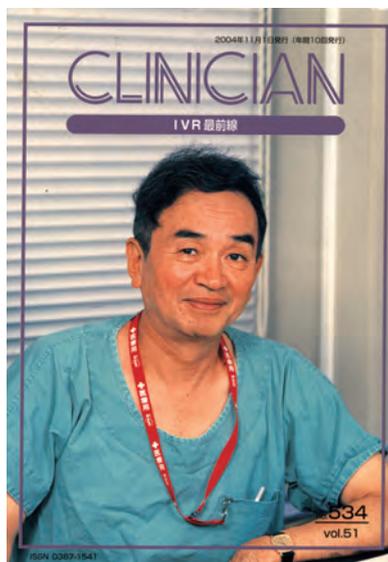
は臓器移植法施行後初の脳死ドナーからの臓器移植実施となったが、それ以前のことであった。当時、見学先の Pittsburgh 大学には日常一般診療として確立した移植医療があった。故 Starzl 教授もバイパス術後でセミ・リタイアの身ではあったが、カンファレンス等では座長をされ、病理医を交えた移植カンファでは泣き止まぬ自分の赤ん坊をあやしなから、プレゼンをしている医師が印象的で、日本では有り得んことだなと感じたことを記憶する。帰国して移植外科医になりたい想いを岡崎先生に伝えると大変喜ばれ、翌週の厚労省班会議にお連れ頂き国立がんセンターで岡崎先生の元同僚であられた幕内先生と、そちら



に弟子入りされていた 1 外科先輩の嘉数先生をご紹介頂いた。そして放射線科ローテーション後、膝頭十二指腸切除後再建術の今永法ゆかりの愛知県がんセンターに消化器外科チーフ・レジデントとして勤務するが、岡崎先生の弟子というだけで放射線科の荒井部長（後に国立がんセンター部長として異動）ほか、多くの外科指導医にも可愛がって頂いたものであった。

現在、血管造影室でエコーガイド下門脈穿刺による経門脈的脾臓移植を吉満教授にお願いして、高山先生に担当して頂いている。思えば脾臓移植黎明期には東原先生、高良先生に御尽力頂き先進医療から保険診療となった。不肖の弟子の一人として、肝臓移植外科医にはならずとも、血管造影室で現行の移植医療を指導する身となった。時に血管造影室で指導医から指導される若い医師の姿に、当時の自分の面影を重ね Dejavu を感じることもある。

ご指導頂きましたことに心から感謝申し上げます、ご冥福をお祈り致します。



## 医局長・医長名簿

(○内の数字は福大医学部卒業回)

令和6年4月現在

	医 局 長	病棟医長	外 来 医 長
[ 福岡大学病院 ]			
腫瘍・血液・感染症内科	佐々木 秀 法	中 島 勇 太 ③①	茂 木 愛 ⑤
内分泌・糖尿病内科	高 士 祐 一	牟 田 芳 実 ③④	横 溝 久
循環器内科	有 村 聴 ②⑧	田 代 浩 平	加 藤 悠 太 ③③
消化器内科	船 越 禎 広 ②③	古 賀 毅 彦 ③③	田 中 崇
呼吸器内科	濱 田 直 樹	春 藤 裕 樹	井 上 博 之
腎臓・膠原病内科	伊 藤 健 二 ⑤	嶋 本 聖	多 田 和 弘
血液浄化療法センター		伊 藤 建 二 ⑤	
脳神経内科	三 嶋 崇 靖 ③①	井 上 賢 一 ③⑧	合 馬 慎 二 ②③
精神神経科	飯 田 仁 志 ③②	畑 中 聡 仁	原 田 康 平
〃 (デイケア)			吉 村 裕 太
小 児 科	宮 本 辰 樹 ②⑦	古 賀 信 彦 ③⑦	後 藤 綾 子
消化器外科	梶 原 正 俊	内 藤 滋 俊	中 島 亮
呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	宮 原 聡	中 島 裕 康	
整形外科	瀬 尾 哉	廣 田 高 志 ③②	塩 川 晃 章 ②⑨
形成外科	小 柳 俊 彰	谷 ありさ	立 道 早 佳
脳神経外科	小 林 広 昌 ③②	吉 永 進 太 郎 ③⑥	田 中 秀 明
心臓血管外科	桑 原 豪 ②⑦	寺 谷 裕 充 ③①	古 井 雅 人
皮膚科	清 水 裕 毅 ③⑥	大 賀 保 範	佐 藤 絵 美 ③⑩
腎泌尿器外科	松 崎 洋 吏 ②⑦	郡 家 直 敬	岡 部 雄
産 婦 人 科	吉 川 賢 一 ③⑥	漆 山 大 知 ③①(産科)	井 槌 大 介 (産科)
〃		重 川 浩 一 郎 ③⑧(婦人科)	清 島 千 尋 (婦人科)
眼 科	原 田 一 宏	上 野 智 弘 ③④	川 村 朋 子
耳 鼻 咽 喉 科	佐 藤 晋 ③⑩	妻 鳥 敬 一 郎 ③②	木 庭 忠 士
放射線科	高 山 幸 久	赤 井 智 春 ②⑦	中 根 慎 一 朗
麻 酔 科	三 股 亮 介 ③②	平 井 規 雅	柴 田 志 保 ②⑥
歯科口腔外科	瀬 戸 美 夏	喜 多 涼 介	吉 野 綾
総合診療科	坂 本 篤 彦	鈴 山 裕 貴 ③④	奥 津 翔 太 ③⑦
病 理 部	上 杉 憲 子		
臨床検査部・輸血部	高 田 耕 平		
救命救急センター	森 本 紳 一 ③⑤	村 西 謙 太 郎 ③⑤	
総合周産期母子医療センター		瀬 戸 上 貴 資 ②⑥(新生児部門)	
〃		小 幡 聡 (小児外来)	
臓器移植医療センター		鈴 山 裕 貴 ③④	野 下 育 真
[ 福岡大学筑紫病院 ]			
筑紫病院 (総医局長)	宮 島 茂 郎 ②②	(泌尿器科)	
循環器内科	池 周 而 ②④	高 宮 陽 介 ②⑥	松 岡 優 太 ③⑤
内分泌・糖尿病内科	阿 部 一 朗	工 藤 忠 睦 ②③	小 林 邦 久
呼吸器内科	串 間 尚 子	木 下 義 晃	吉 田 祐 士 ③①
消化器内科	小 野 陽 一 郎 ②⑥	八 坂 達 尚 ③②	武 田 輝 之 ③①
脳神経内科	津 川 潤	津 川 潤	津 川 潤
小 児 科	久 保 田 慧 ③⑤	塩 手 仁 也 ③⑥	坂 口 崇
外 科	宮 坂 義 浩	小 島 大 望 ②⑥	東 大 二 郎 ①⑤
呼吸器・乳腺外科	吉 田 康 浩	森 下 麻 理 奈 ④①	吉 田 康 浩 ②④
整形外科	坂 本 哲 哉	小 阪 英 智 ③④	蓑 川 創 ③⑩
脳神経外科	井 上 律 郎 ②⑨	井 上 律 郎 ②⑨	新 居 浩 平 ②④
泌 尿 器 科	宮 島 茂 郎 ②②	宮 島 茂 郎 ②②	王 丸 泰 成 ③①
眼 科	芳 賀 聡	森 雄 二 郎	下 川 亜 沙 美
耳 鼻 い ん こ う 科	三 橋 泰 仁 ③③	坂 田 健 太 郎 ③③	坂 田 健 太 郎 ③③
放 射 線 科	浦 川 博 史 ①⑤		
救 急 ・ 総 合 診 療 科	崎 原 永 志 ③③		
麻 酔 科	若 崎 る み 枝		

## 教育職員人事（講師以上）

(○内の数字は福大医学部卒業回) [令和 5.10.2～令和 6.4.1]

区分	所属	資格	氏名	発令日	摘要
退職	学長	教授	朔 啓二郎 ①	5.11.30	
	救命救急医学	教授	石 倉 宏 恭	6. 3.31	定年退職
	精神医学	教授	川 崎 弘 詔	6. 3.31	定年退職
	法医学	教授	久 保 真 一	6. 3.31	定年退職
	総合医学研究センター	教授	向 坂 彰 太 郎	6. 3.31	定年退職
	脳神経内科学	教授	坪 井 義 夫	6. 3.31	定年退職
	総合医学研究センター	教授	林 英 之 樹 ①	6. 3.31	定年退職
	放射線部第二	教授	長 町 茂 樹	6. 3.31	定年退職
	筑紫消化器科	教授	植 木 敏 晴 ⑧	6. 3.31	定年退職
	筑紫救急・総合診療科	准教授	松 尾 邦 浩 ⑧	6. 3.31	定年退職
	脳神経内科学	准教授	藤 岡 伸 助 ⑳	6. 3.31	
	産婦人科	准教授	宮 田 康 平 ㉑	6. 3.31	
	総合周産期母子医療センター	准教授	太 田 栄 治 ⑲	6. 3.31	
採用	麻酔科	講師	原 賀 勇 壮 ⑩	6. 3.31	
	耳鼻咽喉科	講師	田 浦 政 彦	6. 3.31	
	筑紫脳神経外科	講師	坂 本 王 哉 ㉒	6. 3.31	
	産婦人科	講師(4-7)	野 口 幸 子	6. 3.31	
昇格	脳神経内科学	教授	馬 場 康 彦 ㉓	6. 4. 1	
	整形外科	准教授	森 下 雄 一 郎 ㉔	6. 4. 1	
	皮膚科	講師(4-7)	大 賀 保 範	6. 4. 1	
	眼科	講師(4-7)	Huang Jane ㉕	6. 4. 1	
	寄付研究連携呼吸器睡眠医学講座	講師(4-7)	柳 原 豊 史	6. 4. 1	
	医学教育推進講座	教授	北 島 研 ⑳	6. 4. 1	
	救命救急医学	教授	仲 村 佳 彦 ㉖	6. 4. 1	
	精神医学	教授	堀 輝	6. 4. 1	
	医療安全管理部	教授	小 吉 里 枝 ㉗	6. 4. 1	
	筑紫消化器内科	教授	久 部 高 司 ⑰	6. 4. 1	
	内分泌・糖尿病内科学	准教授	高 土 祐 一	6. 4. 1	
	整形外科	准教授	木 下 浩 一 ㉘	6. 4. 1	
	内分泌・糖尿病内科	准教授	横 溝 久	6. 4. 1	
	筑紫外科	准教授	宮 坂 義 浩	6. 4. 1	
	眼科	講師	川 村 朋 子	6. 4. 1	
	整形外科	講師	田 中 潤	6. 4. 1	
	消化器内科	講師	田 中 崇	6. 4. 1	
	呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	講師	中 島 裕 康	6. 4. 1	
	整形外科	講師(4-7)	瀬 尾 哉 ⑳	6. 4. 1	
	産科婦人科学	講師(4-7)	平 川 豊 文 ㉙	6. 4. 1	
総合周産期母子医療センター	講師(4-7)	瀬 戸 上 貴 資 ㉚	6. 4. 1		
呼吸器内科	講師(4-7)	中 尾 明	6. 4. 1		
消化器外科	講師(4-7)	松 本 芳 子 ㉛	6. 4. 1		
泌尿器科	講師(4-7)	宮 崎 健 ㉜	6. 4. 1		
筑紫外科	講師(4-7)	渡 邊 利 史	6. 4. 1		

## 編 集 後 記

去る5月7日、福岡大学病院機能の中核を担う、新しい本館の運用が開始されました。地上11階建てで、屋上にヘリポートを備えた最新鋭の本丸には、1973年以來50年にわたりアップデートし続けた旧本館の機能が、ほぼ全て移されました。これで大規模震災による不安は軽減され、次の50年を紡ぎ続けるための最重要ツールが得られたことになります。あとは、ワークライフバランスや自己効力感といったキーワードに注視しながら、時代に見合った運用システムを構築できるかが鍵になります。多様な志を持った人材を維持できるか否かは、その点にかかっているように思います。紡ぎ手の確保なくして福岡大学病院の歩みはありません。より多くの知恵を出し合って取り組むべき課題です。

烏帽子会 広報担当理事 坂田 俊文 (10回生)

# Fukuoka University Outstanding Medical Student Award [FU-OMSA]

## Reception Dinner

レ・セレブリティ 令和6年2月5日



### 烏帽子会会報第76号

発行日 2024年6月1日  
発行人 小玉 正太  
編集人 小玉 正太

発行所 〒814-0180 福岡市城南区七隈7-45-1  
福岡大学医学部同窓会  
電話:092-865-6353(直通)  
092-801-1011(代表) 内線[3032]  
FAX:092-865-9484  
E-mail: maileboshi@gmail.com

印刷所 ロータリー印刷株式会社  
福岡市中央区港2-8-9  
電話:092-711-7741  
FAX:092-711-7901